

喜田議員 皆さん、おはようございます。まず初めに、新型コロナウイルス感染症により、命を落とされた方、先日の福島県沖の地震、そして、本日は、東日本大震災からちょうど10年目になります。改めまして、犠牲者の皆様のご冥福をお祈り申し上げます。それでは、通告していましたが、通告書に基づき、次の2点についてご質問させていただきます。まず最初に、牟岐町に関係する若者と町民を結び付ける手段をについて質問します。第2期総合戦略の重点事業の一つとし、枅富町長は、牟岐町に関係する若者人材育成にも力を注いでおられますが、現在牟岐町と関係する主な団体としまして、京都産業大学木原ゼミ、徳島大学建築サークルAUT、徳島文理大学もちつとむぎゆつと会、ひとつむぎ、HLAB、yourplaceなど、各大学のサークルやグループ等があります。そして、この牟岐町に関係する各大学の若者達の企画や活動内容は幅が広く、様々な分野で活動を行っており、牟岐町との関係を築いているようです。しかし、これらの団体の活動内容や実績は、その関係団体や、一部の方達には浸透しているようですが、その他の多くの町民の皆様には、まだまだ認識がされていないように思います。2月には、オンライン形式ではありますが、牟岐町に魅力を感じ、牟岐町の活性化を図りたいとの思いで、関係団体の大学生や牟岐の若者による、「牟岐みらい会議」という発表会が開催され、町長も参加されておられました。この発表会では、それぞれの団体から活発な意見や提案が出され、牟岐町を愛する若者達の熱意が感じられました。今後も引き続き、3月にも開催されるようですが、このような牟岐町に関係する若者には、目を見張るものがあります。ぜひ町民の皆様にご理解をいただき、もっと幅広く認識してもらうことが必要ではないかと思えます。本議会初日の町長のご挨拶でも触れられていましたが、コロナ終息後には、たくさんの若者の来町を歓迎したい。そして、牟岐人アプリも動き始めました。この牟岐町をどんどんアピールしてくれるのは、若者達です。町民の皆様と大学生の活動内容を点と点ではなく、線で結びつけるような状況を作り、関係する大学生や若者の活動内容を無駄にすることなく、幅広く交流ができるような企画を行っていただきたいと思えます。今は、コロナ禍の中で密になる交流は困難な時期ですが、コロナの終息後には、若者達と町民をつなぐ催しや、文化センターなどを利用し、町民の皆さんをお招きし、若者の発表会の機会を増やし、積極的に交流を図る場所づくりが大切ではないかと思えますが、これらのことについて、今後どのように

進められるのかお聞かせください。よろしく申し上げます。次に、庁舎移転計画についてお伺いします。役場庁舎の改修や移転問題については、早急に取り組むべき事案とされ、前町長在職時にも議員各位より幾度か質問が行われていました。令和になり、杵富町長の就任後、新体制の直後にも質問が行われ、町長より「候補地の選定にあたっては、牟岐町役場庁舎移転・建設等検討委員会の報告書を基本に、議会、住民の意見を聞きながら進めていきたい」と答弁されています。その後、2年足らずの月日が経ちましたが、この問題について進展はあったのでしょうか。検討委員会での話し合いについては、回数を重ね協議をすることが望ましいと思いますが、その検討委員会の協議は、この2年足らずの間に、どれぐらい行われてきたのでしょうか。また、検討委員会の活動状況があまり見えてこないのですが、今後も継続して進めていかれるのでしょうか。以前に、候補の一つにも挙げられていました、旧海部病院の今後の利活用についても進展があり、ゴミ焼却場問題におきましても、わずかではありますが、一歩進んだ状況となってまいりました。冒頭でも触れましたが、先日、東北地方で10年前の東日本大震災の余震とされる大きな地震も発生しました。南海トラフ地震もいつ発生するかもわからない状況です。本日の新聞にも掲載されていましたが、津波発生時には、最大で9.8mの浸水が想定され、設定している代替庁舎では、業務継続が厳しくなることが想定されます。このように庁舎の問題については、代替庁舎のことも含め、厳しい町財政ですが、計画性をもって早急に取り組むべきことではないでしょうか。コロナ禍の大変な状況ではありますが、今後、どのように進めていかれるのか、町長の新たな見解をお聞かせください。よろしく申し上げます。

一山議長 杵富町長。

(杵富町長 登壇)

杵富町長 皆さん、おはようございます。先ほど、議場内の皆様方全員で黙とうを捧げました。また、発生時刻の2時46分には、また、庁舎内でも黙とうを捧げたいと思っていますので、ご来庁の場合は、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。それでは、喜田議員ご質問の質問、牟岐町に関係する若者と、町民

を結びつける手段について、お答えします。第1期総合戦略では、経費について、町単であったこともあり、有識者会議では評価が高かったものの、行政としては厳しい部分がありました。第2期総合戦略から、国費を活用することとなり、私としても、関係人口の拡大に取り組むことを、表明しました。若者人材育成の観点からは、NPO法人牟岐キャリアサポートの中間支援により、県南キャンパス事業等で、NPO法人ひとつむぎ、一般社団法人HLAB、社会人メンターを活用し牟岐町の中学生、高校生たちに新しい風を吹き込み、子どもたちの積極性を引き出し、リーダー的な人材を育成するとともに、大学生と活動をする中で、牟岐町の魅力の再発見をしてもらい、将来、牟岐へ帰ってきてくれる人材の誕生を、目指しています。そのためには、大学生の力だけでは足りない部分において、地域のみなさんにも、お世話になっているところです。議員おっしゃるように、点と点を結び、線から面へ展開させていくことが、ご質問にありました、様々な催しが意義のあるものになると、思っています。コロナウイルス感染拡大以前では、春休みから、大学生に入ってもらい、シラタマ活動として、当年の子どもたちが目標を作り、その実現には、何が必要なのかを考え、課題を乗り越えながら、夏休みに、その成果発表としての場を、旧小学校カフェ室、体育館を使用して、イベントを開催し、町民のみなさまに、周知を図っていましたが、広報、情報発信が十分でなかったかと思っておりますので、ホームページや、アプリでの動画、画像の配信による、活動の周知を図っていきたいと思います。動画等の配信や、写真の掲載については、許可をとるなど制限もありますので、制限の範囲内で、コロナ終息後には、積極的に公開し、町民の皆様への周知に努めたいと思います。牟岐町の若者発信の「牟岐みらい会議」のような企画、3月21日には、第2回目を開催する予定と聞いています。こういう企画には、出来るだけのサポートをしていきたいと思っております。また、「牟岐町にぎわい産業祭」など、様々な年代の方が、交流できるイベントもありますので、多くの方々の、交流の場が賑わい、将来の牟岐町の活性化につながっていければと、思っています。次に、役場庁舎移転計画について、お答えします。この件につきましては、昨年6月議会と、続いて9月議会でも6月議会と同じと、横尾議員の質問にお答えをしていますが、牟岐町役場庁舎移転につきましては、多額の事業費を要します。本来、庁舎を建設するときは、何年も前から資金計画を立てて、建設資金を積み立てるなどするものです。牟岐町の財政は、徳島県の新海部病院の造成工事に伴う、借金返済が本

格的にはじまり、財政的に非常に厳しい状況にあります。新庁舎建設の基金を積み立てていないことから、全額借金で建てなければならない状況です。有利な起債としまして、津波の浸水区域から浸水区域外へ、庁舎を移転する場合に対象となります、緊急防災・減災事業債がありますが、これは令和2年度までとなっています。庁舎建設には、4、5年かかりますことから、このような起債が5年以上存続することが決まらないことには、事業着手できない状況です。この緊急防災・減災事業債の延長を期待しているところです。とお答えさせていただいています。このたび、緊急防災・減災事業債の制度が、令和7年度まで、5年延長されることになりましたので、それまでに、庁舎が移転できるようにと考えています。令和7年を目標に、進めていきたいと考えています。牟岐町役場庁舎移転・建設等検討委員会は、2箇所の候補地を選定し、前町長に答申した時点で役割を終えているとの認識です。以上です。よろしく申し上げます。

一山議長 喜田議員。

喜田議員 ご答弁いただき、ありがとうございます。まだまだコロナが収まらない中、密な交流を行うことができませんが、今後も若者の関係人口を積極的に増やしていただき、この牟岐町の将来を担う若者達の考えや活動を大切にしながら、彼らと町民の皆さんをいろんな方法で交流をし、活発に行うことを期待します。また、庁舎の問題につきましては、本当に多額な費用がかかるのは分かっています。住民の日常生活を支える要の役場職員の皆様が災害時にも安心して住民のサポートができるような環境づくりを目標として、今、長々とおっしゃっていましたが、今後も計画性を持って積極的に取り組んでいただくことを希望し、私からの質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。